

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

元 年 3 月 号 (200号)
元 年 3 月 号 (200号)
3 月 号 (200号)
発 行 者 萃 岳
編 集 者 岳
中 村 愛 岳

現 在 会 員 数 名
171 名
278 名
51 名
(500 名)
月 区 区 区
3 地 地 地
年 子 山 船
元 逗 葉 大 (合 計)

初段受審の感慨

若葉支部 佐々木 邦子

春の訪れと共に春期審査会も間近になって参りました。昨秋の初段受審の頃を反芻しつつ、其の日の新鮮な気持を維持して居るか、自分に問いかけてみたいと思ひます。

千葉紘岳先生のご師事を仰ぎて早や半年、そして入門当時、想像だになかった初段受審の日となりました。正直な処、先輩からお誘いを頂きました折、次々の手術によって、心身共に痛め尽くしていた私にとって、それは何よりの救いであり、唯楽しみだけのつもりでした。しかし千葉先生のご熱心なご指導に加えて、吟を通して人生を語られる御教えに、次第に吟に引き込まれる思いでした。

そして先生のお勧めにためらう事なく、初段の受審となったのです。「とにかく吟にならなくてもよい。平生のご指導のとおり、基本に忠実に、思い切り声を出してみよう。」不遜と知りつつ、先生方の前に立たせて頂きました。夢中で吟じました。「もう少し、調子を抑えて練習してごらんなさい」とのご指導を賜り外に出しました。

やはり常にご指示頂いている事に添えなかつた自戒と裏腹に、とても清々しい気がしました。それは成し終えた喜びと共に、たとえ年は重ねても、緊張出来る場を頂ける併せからなのでしょうか。けれども「審査を受ける以上、決して楽しみだけの勉強であってはならない」と心に刻みつつ帰路につきました。ふと「そう力まず、楽しくやりましょうよ」と心を柔らかけて頂く先生の御声を拝聴する思いが致しました。

此の日から半年過ぎました今、益々吟の難かしさ、厳しさに挫けそうになる反面、漢詩の中に、古今東西変らぬ人の心を学ぶ楽しみは、日毎に募って参りました。又吟は、不自由な体となった私に、生きる喜びをも与えて下さいました。これも偏に先生始め先輩の皆様の温かいご庇護あつたの事と、感謝の日々でございます。吟の道を力強く進ませて下さい。

教務部の仕事について

教務部長 竹石 憲岳

教務部の主な仕事は、指導者講習会が円滑に施行されるよう、お膳立をすることです。具体的には次のようなことです。

- 1. 会場の設定

2・講習会費を徴収経理する

3・会場費の支払い、講師への謝礼、屢
弔費、通信費、その他雑費の支出

さて、指導者講習会は毎月の最終月曜日
午後七時より二時間、桜山の六代御前境内
にある桜山会館（二月から都合により当分
の間社務所）で行っています。講師は当碩
心会名誉会長松井岳洋先生です。指導者は
43名で、準師範22名、師範16名、正師範4
名、上席師範1名の現状です。

目的は（一）吟技の向上、（二）吟法の統一、（三）
各教場との連絡、伝達等です。

松井岳洋先生は現在「吟道」誌に連載さ
れてるように、逗子から東京まで通われ、
祖宗範木村岳風先生教場で指導を受けられ
た、岳風流統の第一人者でいられることは
皆様御承知のとおりです。85才の御高齢に
もかゝらず、暗記力は抜群で、まず右に
出る人はないと思います。先生の申される
には、暗夜の逗子海岸浪子不動辺で練習す
るので、教本等見ること不可能のため、暗
記することに努めたとのこと。まさに
感服の一語です。最高の講師をいただく光
榮に、指導者一同発奮して勉強し、会員に
伝導するよう努力しております。

その他の仕事は、（一）泉本部主催の指導者
講習会への出席に関する件、（二）総本部主催

の夏期吟道講座（初伝以上参加可）への出
席に関する件、（三）教本・テキストの購入・
配布等、以上の事務取扱いをやっております。
す。

なお、副部長は松井正風氏で、若さで頑
張っております。

特集・月報200号に寄せて

月報は同好の士の

心を繋ぐ「糸」

上原支部 大坪 功山

月報「碩心」が200号の長きに亘り、会員
相互の唯一の会誌として連綿と続けられて
来た事は、誠に意義深い事だと思えます。
会員の一人として心よりお祝いを申し上げ
ます。

この間休む事なく毎月編集に努められた
方々の御苦労は察して余り有る気が致しま
す。数頁の会誌ではありますが、吟を愛す
る同好の人々が、自分の「想い」を語り、
又詩の心、吟の歴史を知る事により、詩吟
の楽しさを益々増幅させる大きな役目を果
して来たものと思えます。今の社会は、物
事の本当の姿が何であるかを見失う様な時
があります。そんな時唯一大切な事は、自

身が人の心を見失わない事だと思えます。
詩は人の心の表現であります。これを真
に理解し、日常の生活の中に心の糧として
詠じる事が、私達の詩吟であり、吟詠では
ないでしょうか。この月報誌「碩心」が真
に吟を愛する同好の人達の心を繋ぐ「糸」
として、何時までも発行される事を願って
おります。

もっと投稿に

協力しましょう

逗子A支部 村田 静岳

200号特集と聞き今更の様に、歴代の広報
部の先生方に感謝いたします。仲々集まら
ない原稿を集め、編集なさる努力は大変だ
なあと思いながら、毎月たのしみに待って
おります。博学の先生方も多く居られる碩
心会です。もっと投稿していただいて、ま
すますすばらしい月報になる様、皆さんで
お手助けして行きましょう。

先日新しい名簿もお手許に届いていると
思います。入退会の方達の報告ものってい
ますので、是非名簿に書き添えていただき
たいと思えます。

広報の先生方の御苦労を思い、私達の会
員の月報として発展する様協力して行きたく
と思えます。ありがとうございます。

毎月楽しみに待つ

銀詠支部 真下 華風

逗子に転居後、縁あって碩心会に入会してきましたが、先生はじめ皆さんの熱心さに、それまでに味わったことのない緊張感でいっぱいでした。

そして、初めて「碩心」を手にした時、教場ばかりでなく、会員の皆さんの活躍振りに驚き、自分の不勉強さを大いに反省させられました。

又、以前に詩吟をかじったことがあるとは云え、余りにも無知だった私は「碩心」によって、先輩諸氏の暖かい心にも振れ、細かい気配りに、心の安らぎを覚え、毎月の発行を楽しみに待つ者の一人となっています。

月報と心の触れ合い

沼間支部 清水 耀岳

私達支部では数名の方が六十年四月からNHK放送講座の「漢詩をよむ」を聞いていますので、吟練成の時話題になり、各員相互の励みになっています。

又毎月発行の月報「碩心」は吟詠習得の

必須要項がたくさん記載されていますので、特別な関心と期待が持たれています。各支部の方が寄稿される感想文は非常に有益であり、心の温まる様な思いがします。特に注目すべきは「練吟メモ」であって、私達にはほんとうによき導きであり、吟修練上知識を求むる最高の教本であると思います。月報配布に關しまして広報担当の方々は、日夜原稿の作成編集に御奉仕下され、心から感謝を申し上げます。此の度の昭和天皇の御逝去を悲しむと共に、新天皇の御即位を寿ぎ、悲喜交々に、昭和から平成へと心も新たに、吟道の発展と健康の増進に躍進したいと思えます。

練吟メモに敬意

真澄支部 水上 昌風

自ら好んで入会させて頂き、年を重ねて早や十年経ちましたが、浅学非才の為、月報「碩心」に記載されるのは本当に恥ずかしい次第です。入会後村田先生の心情溢る御指導と、支部皆様の御尽力により、何事にも引込思案の私に勇気を与えて下さいました。

月報を拝読して、何時も感じます事は、愛岳先生の編集に対する御苦労、御熱心さ

が滲み出ている事です。そして会員皆様の旅行記、吟に対する心構え、生きる欲び、作詩等、余す処なく読ませて頂いております。殊に「練吟メモ」の欄は、古えや現在の蘊蓄を傾けた読みものになって、一段と新しい知識を得て、嬉しく勉強させて頂き、今更ながら敬意と、感謝の念を新たに致しております。今後共益々健康で御鞭撻下さいますようお願い致します。

あらためて知る

才月のながれ

諏訪支部 加藤 健山

この度月報「碩心」200号記念特集おめでとうございます。才月の流れは早いもので、私が碩心会に入会して、早や八年目を迎えることになりましたが、最初に読んだのが105号ですから、約半分は読ませていただいた事になります。おそらく第1号は約十六年前の昭和四十八年頃と察します。この長い年月の間、編集者の方々の御苦労に厚く感謝申し上げます。

入会以来、教場の先生をはじめ、諸先輩の方々の暖かい御指導により、今日迄吟道に励んでいます。難しい時、苦しい時、声の出ない時……などあって仲々思う様な吟が出来ない時が度々あって、その都度ブ

レッシュャーが掛ります。

そんな時、私の心をほぐしてくれるのが月報「碩心」です。先輩の方々の苦心談をはじめ、詩の尊さ、吟の解説（練吟メモ）碩心会の内外の活動及び情報等々、吟道を学ぶ楽しさを養ってくれる役割を果してくれるからです。

私の希望として、紙面に余裕があったら大会等で、その都度根岸会長から碩心会の生い立ち、歴史（五十年）、苦心談等の思ひ出話を聞きました。各教場の諸先生方、当初の碩心会入会のいきさつ、吟歴、思ひ出話、苦心談等を知る事が出来たら、何かと参考になるかと思えます。

練吟 メモ なままり

○平成元年になって間もなく、群馬県の一主婦が新聞に「平成はキリット正しい発音で」と題して投書していた。主旨は、アナウンサーはさすがに「へいせい」と発音しているが、一般には「へいせい」か「へいせい」に聞える人の方が多い。私は詩吟を習っているが、いつもこの種の言葉の発音は、アクセントとともに厳しく注意されている。「へいせい」とはつきり発音すればキリッと締って聞えるが、前記の発音では

何やらだらしない、というのである。

○反論がすぐに掲載された。確かに、耳にするところでは「へいせい」「へいせい」が普通なのではないか。今の若い世代は、例えば「エイ」とか「オウ」を「エー」や「オー」と長音にしているが、これは言葉の乱れではなく、音韻の変化である。だから「平成」は詩吟流の「へいせい」でなく「へいせい」「へいせい」で構わないと思う。私たちは、正しい日本語を使うよう心がけるべきであるが、文書に表記されているとおり発音で話さなければ間違いないことではないと思う、というのである。

○右に関連し、筆者の失敗談を紹介したい。先日必要があり、国語辞典で「潮干狩り」を引いたが見出しが見つからない。そんなばかなことが二度・三度見直したが見当らない。辞典の発行所に言えばびっくりするだろうなどと思いつつ、別の国語辞典を見たがやはりない。そこではっと気がついた。そうだ、潮干狩の語頭は「ひ」でなく「し」であると。先ごろも「しめじ」を「ひめじ」と思いこんでいたではないか。開東なままりは「しおひがり」が「ひおしがり」になる。「へいせい」も同様で「本人は結構「へいせい」と正しく発音しているつもりでいるのだからどうしようもない。

○吟詠上は、なままりはご法度である。特に出だしの「題名」と「作者名」は、格調高く明確を要求されているから、一字でもなままりが入るとズッコけてしまうからこわい。

1 吟題例（・は「イ」のなままり）
「偶成」（グウセエ） 教本は、一五

巻でこの題名入りが十一ある。
2 作者例（・は「イ」のなままり）
星巖（セエガン） 磐溪（バンケエ）
高啓（コウケエ） 張継（チョウケエ）

3 敷島の大和心を人間はば
朝日に匂ふ山ざくら花
世の中に同じころの人もがな
草の庵に一夜語らむ

（訂正）
453 矢板静枝 名簿雅号欄に（静山）を記入
（退会）
155 花見好風（桜山A） 455 藤井洋子（逗子A）
499 根岸由佳（堀内下B）

48年8月創刊、55年11月100号記念には、先生方からひと言ずついただきましたが、今回は会員の皆様の声を聞かせていただきました。毎月巻頭に必ず書いて頂く「私と詩吟」なる記事：何人の方に書いて頂いたやら？全員目標にしていますのでご投稿を。